

「くにたち市政に望むこと」市民から7つの政策提言(前号掲載)

3月議会で質問し、市が提言を活かしていくことを求めました

深刻化するコロナ危機の中で再選された永見市長には、市民の命と暮らしを守るためのソーシャルインクルージョンによるまちづくりを、これまで以上に発展させることが求められます。上村は3月議会で市民からの提言を示し、市としてどのように取り組んでいくのか、聞きました。

市民提言 1

財政問題 生活困難者救済に全力を

市答弁 命や生活に関わる予算は

確保していく

市長 必要な支援は必ず実施していく。事業の必要性を見極め、何を支援しなければならぬかを見極める。

新年度当初予算は厳しいが、扶助費等は生命や生活に直結する予算だから、今回も削減等は一切しなかった。安定的な財政運営とコロナ対策は両立を図りながら必要な支援をしっかりとやっていく。

宮崎政策経営部長 3年度予算にお

いても生活に関わる予算は削減せず、全体的な支出を圧縮するよう取り組んできた。扶助費が増加しており基金を取り崩して予算を組んでいる。命や生活に関わる予算は当たり前のこととして確保していく。継続して国や都に財政的支援、必要な支援を求めていく。

上村 財源について国に対し市長会

の中でしっかりと物を言っしてほしい。

市民提言 2

女性問題 女性のSOSに「できる

ことはない」と言わない町に／女性支援法を先取りした政策を

市答弁 ノウハウを持った民間支

援団体との協働支援を考える

市長 国レベルでの包括的女性支援の法整備がまだ進まない中、厚生労働省が困難な課題を抱える女性への支援のあり方についての研究会を設けている。国立市では女性パーソナルサポート事業として先駆的に取り

組んできた。ノウハウを持った民間団体と国が言う協働支援のあり方をどう進めるかまず考えていく。

宮崎部長 3年度予算で女性サポー

ト事業に一時的な住居確保の予算の拡充を図っている。民間支援団体との迅速な連携体制を考えていく。

上村 最初から民間と行政がワンス

トップで対応できる、女性の総合的な支援窓口をつくってほしい、との声がある。早急に積極的な検討を求める。

市民提言 3

しょうがいしゃ福祉 地域の中で人

権を尊重され生き続けられる国立を／当事者抜きに決めない／個別対応の徹底／フルインクルーシブ教育

市答弁 当事者の人権が尊重され、

安心して暮らせるよう努める

大川健康福祉部長 誰もが当たり前暮らしすまじ宣言の条例による制度を整えながら、しょうがい当事者の人権が尊重され、安心して暮らせるよう努める。しょうがいしゃ計画策

定委員会に必ず当事者に参画してもらっている。

橋本教育次長 フルインクルーシ

ブ教育は、就学支援委員会、特別支援学級児童生徒の交流と共同学習、特別支援学校との副籍交流、通常学級での合理的配慮の推進等、実現に向けて取り組んでいる。とくにスマイリーサポートは、発達しょうがいに限定していたが、どんな児童生徒でも支援できるように要綱を改正した。

上村 コロナ禍の中でしょうがい

しゃが介助者付きで安心して入院できる仕組みを市としてつくってほしい。厚生省からも通知が出ているが、困難な場合もあるようだ。

大川部長 しょうがい当事者が発信

した内容をまわりに伝える仕組みを進めていきたい。

上村 当事者から人権博物館設置の

強い要望が出されている。

宮崎部長 人権の審議会でも同様の

意見が出されているので、まず審議会で意見交換し、方向性を出したい。